P−35

妊娠期から育児不安を訴える高齢初産婦への関わりの検討

佐藤郁美
竹田綜合病院　周産母子室

【背景・目的】近年、ライフスタイルの多様化に伴う晩婚化により、第一子の出産年齢が上昇し、平成 27 年には、30.7 歳となった[1]。これに伴い不妊治療を経験して母親となる女性も増加している。また、出産年齢の高齢化に伴い、産後の育児支援も支援者である実母が老年期にある場合や、他界などによって十分な支援を得られず不安を訴える者もいる。今後も、高齢初産婦の割合は高くなり、育児不安を訴える母親も増加することが予測され、これに対する支援が求められている。本研究では、高齢初産婦における妊娠期の育児不安を明らかにし、その育児不安を軽減させる関わりについて考察する。

【方法】研究デザイン：事例研究
研究期間：平成 29 年 5 月～8 月
研究対象：40 歳代、不妊治療により妊娠した初産婦。夫は 50 歳代で二人暮らし。実母は他界し、義理の両親は遠方、高齢にて支援は望めない状況かつ、唯一の支援者である夫は、日中勤務しているため不在になる。
研究方法：24 週の妊婦健診以後 5 回実施した保健指導における自身の関わりについてプロセスレコードを介して振り返ると共に、高齢初産婦の育児不安を軽減させる関わりを考察する。
倫理的配慮：病院倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】対象者からの育児不安に関する訴えと、母子手帳への記載内容、またそれらに対する関わりについて、週数ごとにまとめた。

1.【24-27 週】
母子手帳へは『赤ちゃんは 1kg 超えました。順調です！これからが楽しみです。』と記載あり。保健指導にてエコー写真を見て「かわいい。順調ですか？」と発言あり。児の成長が順調であることを伝え、共に児の成長を喜んだ。

2.【30 週 2 日】
「夫の帰りが 20 時過ぎで、家事を手伝ってもらえないことに少しストレスを感じちゃってます。休みながらこなしてるんですけど。産後は、宿泊型産後ケアの利用考えてます。母もいないし、なかなか。助産師さんが、お家に来て手伝ってくれることは出来ないですもんね。」と発言あり。これに対し、家事を上手にこなし、順調な妊娠経過を辿れていることを評価した。また、当院の助産師が訪問することは出来かねるが、産後に市町村へ繋ぎ、保健師の訪問などは可能と説明した。宿泊型産後ケアを利用することも、産後の生活を送る上で良い選択肢であると伝えた。

3.【32 週 2 日】(医師より癒着胎盤にて子宮全摘となる可能性があること説明入る。)
本人より、産後に関する質問は無く、手術についての疑問や不安の表出が多く聞かれた。それに対し、本人が納得するよう説明した。

4.【35 週 1 日】(医師より具体的な手術の説明が入る)
手術に関しては、医師に質問し納得した様子であり、保健指導では手術に関する訴えはなかった。そのため、一般的な入院に際して必要な書類や手続きについての説明をした。

5.【36 週 1 日】
「宿泊型産後ケアは利用しない方向で考えています。夫が 17 時に仕事を終えて、17 時半には帰ってきてくれて、沐浴とか家事を手伝ってくれる予定です。」
無事に、妊娠期間を過ごせたことを評価し、本人の意志を尊重しつつ、産後ケア利用の有無は、入院中の経過をみながらまた検討しましょうと説明した。
37 週 0 日に予定通り帝王切開となった。

【考察】本研究の事例は不妊治療を経験した高齢初産婦であり、松山らが言うように、不妊治療後の妊娠であり、特別な妊婦であるという思いや、胎児の健康状態が良好であることで喜びを感じる[2]姿が見られた。今回のように特定の助産師が保健指導を担当することによって、対象者の特徴を理解した上で関わることができ、それが対象者にとって安心感へと繋がった。また、具体的な育児不安に対して、適宜社会資源を紹介することも不安軽減へと繋がったことが考えられる。妊娠後期となり、手術日が近づいてくると、産後の不安よりも手術に対する不安が上回ることが示唆された。さらに、今回の事例では、妊娠期を無事に過ごせたことが本人にとって自信となり、夫と協力しながら育児を行っていくという前向きな思考へと変化した姿が見られた。このことから、対象者の思いを尊重し、評価することで自己効力感を高めることも育児不安の軽減に繋がると考える。
本研究は、対象者が 1 名であるため検討内容に限界がある。今後、妊娠期から育児不安を訴える高齢初産婦への支援がより充実するよう研究を進めていく必要がある。

【結論】妊娠期から育児不安を訴える高齢初産婦へは、妊婦が訴える不安を傾聴し、利用可能な社会資源を適宜紹介すること、また自己効力感を高める関わりにて、妊娠期における育児不安を軽減させていく必要がある。

【参考文献】
1) 平成 29 年版少子化社会対策白書概要版 http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2017/29pdfgaiyoh/pdf/s1-1.pdf 2017.8.19
2)松山久美ら：不妊治療後の妊婦への母親役割獲得に向けた妊娠期の支援，岐阜県立看護大学紀要，16(1)，2016